

ふるさと便り

―「上越タイムス」の記事より―

高田駅にエレベータ完成（十一月）

JR高田駅にエレベータと新跨（こ）線橋が完成。上下線ホームの跨線橋脇に各一基エレベータが設置され、年配者などから喜ばれている。また従来の跨線橋は廃止となる。



北陸新幹線 長野～金沢 四年後に開業へ（二月）

平成二十七年三月に開業予定の北陸新幹線。上越市内では全工区で高架橋の設置を完了し年度内には一本の構造物としてつながる予定である。引き続き消雪軌道、電機などの設備工事を進めていく。飯山トンネル内では線路の敷設も始まっている。糸魚川市は、高架橋が市街地を東西に貫き、国道八号線東バイパスと並行する。待望の開業までに、駅名問題、全列車の停車問題、在来線の経営や大糸線の存続などの課題が山積している。



柿崎の楞嚴寺本堂、山門が文化財に指定（二月）

柿崎の歴史を伝える、曹洞宗寺院楞嚴寺本堂と山門が登録有形文化財に指定された。郷土の武将柿崎和泉守景家の菩提寺であり、一五三四年に創建された。六日町の雲洞庵と兄弟関係の建築。



きょうなら人気者ジョー（二月）
「立つアザラシ」として人気の高かった上越水族館のゴマフアザラシのジョーが老衰のため死んだ。立った姿で水槽を漂う姿がテレビなどで紹介され、多くの来館者を集め人気者だった。ジョーは野生のアザラシで昭和五十五年に小樽水族館から来た。推定年齢三十三歳、人間に例えると約百才の長寿であった。



レルヒ祭「前夜祭」（二月）

本町商店街でレルヒ祭「前夜祭」として「くびき野食の祭典」「レルヒ屋台村」「J級グルメ」などの食のイベントが繰り広げられ、大いに賑わった。

レルヒ祭に三万八千人（二月）
 金谷山スキー場と本町商店街で開かれた日本スキー発祥百周年記念「レルヒ祭」が三万八千人を超える人出を記録した。加藤清四郎君が出演した「たいまつ行進」や食の催しなどが集客に大いに寄与した。



ふるさとの歌 諏訪村歌のCD完成
 （三月）
 昭和三十年に高田市に編入された旧諏訪村の村歌を歌ったCDが完成した。CDには、旧諏訪中学と旧津有中学の校歌、諏訪小学校校歌が収録されている。



上越地域に二年連続の豪雪（二月）
 上越地区は昨冬に続き豪雪に見舞われた。上越、妙高市では災害救助法が適用され、高田市街地では一斉雪おろしを実施。



名立区赤野俣で寒中みそぎが復活（二月）
 名立区谷口の天王滝（大滝）で約十年ぶりにみそぎ鉦成会が実行された。



春を呼ぶ桑取川河口の風物詩（二月）
 桑取川河口の早春の風物詩、カタノリ採りが最盛期を迎えた。住民総出で、冷たい海水で育まれた上もののカタノリを採集した。



上越市で震度5強 (三月)

「まさか一日続けて」。前日三月十一日の揺れを上回る地震が、三月十二日未明に上越地方を襲った。長野県北部を震源とする地震があり、長野県栄村で震度6強、上越市で震度5強、妙高市で震度4を観測。余震も続いた。一連の地震で、建物の半壊一棟、一部損壊住宅百二十二棟、公共建物でも三十三棟に被害が発生した。震度6強を観測した栄村と山を挟んで隣り合わせの安塚区では約六十人がキュービッドバレイススキー場に居たが無事。ただ飲食器具に多大な損害が見られた。激震災害に指定された。



レルヒ少佐の生誕地スロバキアから大使来越 (三月)

レルヒ少佐の生誕地、スロバキアのシュトス駐日大使が来越し、金谷山の日本スキー発祥記念館を訪れ村山市長と会談した。少佐は首都のプラチスラバ生まれ。当時はオーストリアハングリー帝国であった。



善導寺の善導大師立像 国重要文化財に指定に (三月)

寺町二目の善導寺の善導大師立像は高さ百二十七センチ。唐代浄土教の大成者善導大師の像で、鎌倉時代中期に運慶派の仏師の作とみられている。



被災者受け入れ開始 (三月)

上越市は東日本地震の被災者たちの受け入れを始めた。二百人規模の受け入れが可能な総合体育館で疲労を休めてもらう。柔道用の畳を敷き間仕切りで六室を造った。上越市は千人程度の受け入れを表明している。最初の百九十九人が南相馬市から到着した。



無人機で原発撮影 (三月)

地震と津波による大被害を受けた福島第一原発では原子炉の安定化に懸命な復旧作業が連日行われている。そうした中、状況把握、情報収集に妙高市の会社が製造している無人の自動自律航空機(UAV)が協力している。またUAVは噴火活動を続けている九州霧島・新燃岳河口付近の撮影も行っている。

高田城百万人観桜会 (四月)

東日本大震災と長野県北部の地震の発生に伴い規模を縮小して実施された。累計入場者は約八十万入。





咲き続ける風巻神代桜 三和区岡田
(四月)
この桜は樹齢五百年とも八百年ともいわれる古木で、幹回り約53メートル、高さ三十メートルを超える上越市指定文化財。



今に残るスイッチバック開業100周年
(五月)
JR二本木駅は信越線で現存する唯一のスイッチバック方式の折り返し駅である。開業百周年を迎えた。二本木駅は明治四十四年(1911)開業。長野方面に向かって急勾配に位置することから、この方式が採用された。急勾配の本線から平坦な場所の停車場へと分岐させるのだ。日本曹達工場の最寄り駅、貨物駅として百年の歴史を刻んだ。



増村朴斎 七十回忌 (五月)
有恒学舎(現県立有恒高校)を創設した増村朴斎の七十回忌が菩提寺で、多くの同窓生参加のもと開かれた。



宇宙飛行士 山崎直子さん来越(五月)
JAXAの宇宙飛行士山崎直子さんが、上越市制施行四十周年記念講演をした。「人間が生き延びることそのものが奇跡と感じた」と述べ地球の素晴らしさや宇宙生活の面白さ、任務の内容を紹介した。



高田城ロードレース (六月)
新緑の候、千七百人が高田城下をかける「高田城ロードレース」に参加、高田公園陸上競技場を出発した。



霜風 引退 (五月)
八百長問題で、四月に引退届を出した元小結霜風島関が地元後援会に出席、これまでの感謝と新たな決意を述べた。福岡市内の養鶏所で働き第二の人生をスタートさせる。

謙信公祭にGACKTさん出演決定
(六月)

八月の春日山城址周辺を舞台に行われる謙信公祭の謙信役にGACKTさんの出演が決まった。出陣行列と川中島合戦の再現に出演予定。



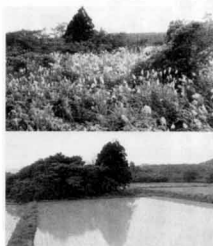
旧長崎屋ビル跡地に新ビル (六月)

本町五丁目旧長崎屋ビル跡地に建設予定の新複合ビルの施工式が行われた。高田中心市街地の賑わい再生が期待される。完成は平成二十五年。



有機農業で荒地復元 「じようえつ東京農大」 (六月)

全国農業会議所と全国農業新聞社主催の「耕作放棄地発生防止・解消活動」で表彰された。荒れ果てた土地を再生、再開する有機農業経営が認められた。



夏の主役 イルカが到着 (六月)

市立水族館に、イルカショーに出演する二頭のバンドウイルカが静岡県三津から到着した。



南葉高原キャンプ場 開設三千周年 (六月)

青田南葉山(標高九百四十九m)の中腹に整備された「南葉高原キャンプ場」は市街地から車で三千分のロケーションにあります。ロッジを中心に山荘、バンガロー、キャンプサイトなどが整備され、昨年までの利用者は五十五万三千人。



柿崎出身のお相撲さん (六月)

先場所六勝一敗の好成績を上げた柿崎出身の「越の浪」(十九歳 立浪部屋)は序二段東三枚目に昇進。活躍が期待される郷土のお相撲さんです。



知命堂病院 設立百四十周年記念式典 (六月)

明治四年旧高田藩医師瀬尾玄弘さんが知命堂として開院したのが始まり。



アカショウビンが吉川区に (六月)

吉川区国田に住み着いた様子のつがいがカメラに取まった。東南アジアで越冬、夏に日本に渡ってくる。日本本土で営巣するが渡来数が少ない珍鳥である。

